HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	「北海道における公衆衛生学の展望」: 明治維新150年の評価とこれからの北海道の公衆衛生
Author(s)	岸, 玲子
Citation	北海道公衆衛生学雑誌, 32(2), 12
Issue Date	2019-03
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/84601
Type	article
Note	学会第70周年記念講演
File Information	HJPH 32(2) 12.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学会第70周年記念講演

北海道公衆衛生学雑誌
32：12 ～ 12，2018

「北海道における公衆衛生学の展望」

—明治維新150年の評価とこれからの北海道の公衆衛生—

岸　玲子[1)]

1．明治維新150年の歴史観と日本の戦争と平和

北海道公衆衛生学会70周年は，北海道150年の歴史の後半の半分近い．明治政府の成立直後から，台湾出兵，日清・日露戦争，1910年韓国併合時に日本領土は，北は樺太，東は千島列島，1931年には支配権は満州国，モンゴルに至り，その後の真珠湾，アジアへの出兵など数々の無謀な戦争ですべて失った．明治維新150年は民主化革命の成功という人がいるがそれは断面的で本質をみていない．これまで私は教科書（New予防医学・公衆衛生学）編集で，過去100年余りの歴史の中で社会経済関係の変遷と人々の健康や安全を考えて講義をしてきたが，日本の公衆衛生の歴史を振り返ると，第２次大戦終結（1945年）までの前半と戦後の新憲法下での70年余りの歴史は制度的にも，理念的にも全く違う．従って150年を２分し評価するほうがよい．

2．公衆衛生から見た戦後73年の人々の健康と安全

公衆衛生は社会から求められる健康課題とその時代で活用できる知識や科学技術によって発展してきた．戦争も侵略もなかった直近73年の時代の特徴は，医療技術の発展と予防活動の充実が進んだことである．最近強調されるのは，専門家の主導ではなく，個々人の主体的な参画による地域社会活動で社会関係資本や社会的支援に着目した地域活動である．特にすべてのセクターにまたがる社会経済政策と環境づくりが重視される．それらによって経済発展と人々のwellbeingの向上も両立する．

3．どうすれば“我々の地域環境”を守り，“豊かで持続的に発展する日本”と“健康で安全な北海道”にできるのか？

これからの50年，100年先の公衆衛生の近未来の予測は決して容易ではない．しかし，過去20年以上の社会経済格差の大幅な拡大や，公正性をかなぐり捨てて平気な政治の劣化に対して，数多くの良書が目に浮かぶのは救いである．それらは「地域力で立ち向かう人口減少社会」，「参加の力」が創る共生社会，「社会を結びなおす」，「ソーシャルキャピタルの有効性」，「すべての若者が生きられる未来を」「ネウボラ，フィンランドの出産・子育て支援」，など枚挙にいとまがない．日本で未だ弱い，人権とジェンダーフリーの確立，社会における民主主義の実現が公衆衛生の諸課題解決のカギになるであろう．

1）北海道大学　環境健康科学研究教育センター
連絡先：岸　玲子
〒060-0812　札幌市北区北12条西７丁目
北海道大学環境健康科学研究教育センター